

教育センターだより

8月



422号 令和7年 8月1日

砺波市教育センター

〒939-1398 砺波市栄町7番3号

TEL 33-1559 FAX 33-1157

E-mail tonami-ec@tonami-city.ed.jp



「非認知能力」の育成に向けて

子供たちの「生きる力」を育むためには、学力だけでなく、やる気や思いやり、感情のコントロール等の「非認知能力」を育てることが不可欠です。教室の中での声がけや、子供の挑戦を認める姿勢が子供たちの成長に大きな影響を与えます。私たち教員一人一人が、子供たちの見えない力に目を向け育てていくことが大切です。また、この力は、保・認・小・中が連携して継続的に支援することでより深く根付いていきます。それぞれの視点を生かしながら非認知能力の育成に努めていきましょう。

ふ れ かい そだ ひ にんものうりよく 振り返りで育つ非認知能力	
テストの点数にはあられない、 <u>自分の将来や人生を豊かにする力</u>	
名前	つけたい力
高める力	【やる気】 【集中力】 【チャレンジ】
自分力	【やりぬく】 【自分を信じる】
忍耐力	【ねばり強くがんばる】 【自分の感情をコントロール】
社会力	【思いやり】 【人とつながる】 【リーダーシップ】
対応力	【失敗から学ぶ力】

幼児教育・小学校教育接続研修会

期日：令和7年6月17日（火） 鷹栖小学校

○研修内容：授業参観（1年 国語科）、グループ協議

指導助言者 幼児教育センター 接続スーパーバイザー 新タ 佳子先生

小学校1年生の授業を参観した後、幼小混合班で子供の姿を通して話し合いました。

【振り返りより】

- 同じ授業を見ても、着眼点や感想が違ふと感じた。子供の姿から語り合い、意見を伝え合うことは大切だと思った。
- 小学校の授業を見ると、保育所やこども園での実体験の積み重ねや自己発揮することを大切にしてきた指導が小学校の学習に繋がっていると感じた。
- 幼小連携で教職員がお互いの保育、教育について理解し合ってきたことが、生き生きと学習している1年生の子供の姿にあらわれていると思った。

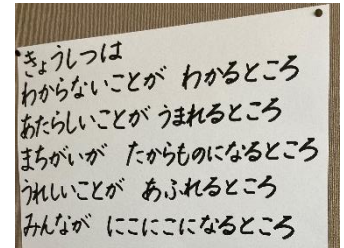


学校訪問研修・教育長訪問より

授業改善に向けて、学校全体で取り組んでおられる様子が、子供たちや先生方の姿から伝わってきました。

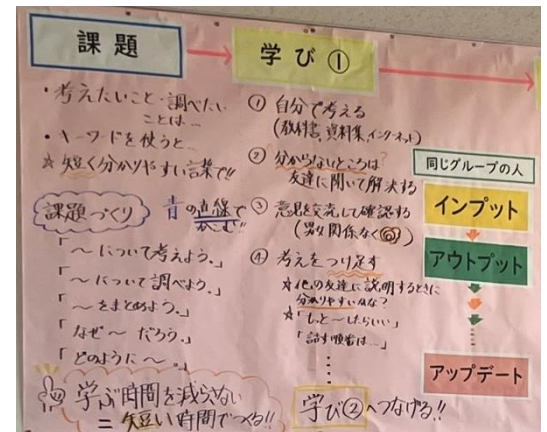
○ 安心して学べる環境づくり

- ・教師が無駄な言葉を削り、間をとった話し方をしたり、笑顔を心がけたりすることで、子供が落ち着いて学習できるようにしている。
- ・教師の立ち位置や机間指導を意識し、学級の子供全体の学習状況を見渡し、適切な支援を行っている。
- ・学級づくりを大切にし、すべての子供たちが安心して活動したり学習したりすることができるようにしている。



○ 学び合いの充実

- ・子供と学び方を共有したり、最初に単元全体の流れを確認したりして、子供が見通しをもって学習を進めることができるようにしている。(子供たちと相談して学び方を作成したり、アップデートしたりしている学校もありました。)
- ・一人の子供の発言に対する周囲の子供の聞く力を高め、よりよい学び合いとなるようにしている。
- ・子供が意識できるように「比較する」「分類する」「関連付ける」等の視点を掲示し、多様な角度から物事を捉えられるようにしている。



砺波市いじめ問題対策連絡協議会開催 7月22日（火） 砺波市役所

本協議会は、学校関係者、学識経験者、相談・保護関係者で構成されています。砺波市のいじめの現状をもとに、各団体が子供たちの健やかな成長のためにどう行動していくかについて協議・検討されました。意見の一部を紹介します。

- ・最近ではパソコンや携帯電話での誹謗中傷が増えている。これからも学校と様々な団体が密な連絡、情報共有を行い、対応を考えていく必要がある。
- ・いじめは、子供が周囲の人に訴えることで分かることが増えている。SNS等の発達により、いじめが見えづらくなっている今、自らSOSを発信することは、早期発見につながり、その後の子供の指導へ生かすことができる。
- ・いじめの裏には、原因や理由がある。家庭環境等、様々な面から捉え、子供や親への対応を考えていく必要がある。

